



コミュニティ・スクールだより

令和8年度 第1回宇部市コミュニティ・スクール推進協議会について（報告）

令和8年6月9日(火)、宇部市役所において、標記推進協議会を開催しました。本会は、中学校区の学校運営協議会の代表者12名と、小・中学校の代表校長4名で組織され、コミュニティ・スクールの取組の充実に向けて協議を行っています。



今回は「**児童生徒が協働活動に主体的に参画できるようにするためには**」をテーマにグループ協議を行いました。以下に意見を紹介します。

【取組例】

- 地域の祭り等の行事へ企画段階から参画し、当日の運営も行った。
- 地域団体と一緒に河川等身近な場所の清掃を行った。
- 企業と小・中・高が連携してお菓子の商品開発を行った。
- 学校と地域が連携して自主防災訓練（研修・避難活動）を行った。
- 熟議を行い、子どもの意見を取り入れて具体的な活動を行った。

【課題・注意点】

- 子どもが考えるということが大切。子どもたちは自分が考えたことは本気で取り組む。
- 行事の企画段階から思い切って任せてみるのが大事。（やる気・興味を示す子どもを中心に）
- 子どもたちに任せきりにしない。地域の支援も必要。
- 行事の目的・目標を明確にし、子どもたちに具体的なテーマ・課題を示すことが大切。
- 取組の始めは大人の後押しも必要。成功体験を重ねることが次の参画につながる。
- 子どもと大人が直接話し合う場をもつ（熟議を行う）ことが重要。
- 生徒が主体的に参画できる動機付けをし、仕組みを作る。
- 子どもたちが“参画”する目的や意義を関係者で共有する。

今回の協議で「児童生徒の参画」に向けて子どもたちが積極的に関わることができるような『仕組み』と『仕掛け』づくりが大切であるということを確認することができました。

子どもたちが、地域学校協働活動を通して信頼できる大人と関わりをもち、多様な経験を積むことは、自己肯定感や他人を思いやる心など、豊かな心の育成につながります。また、地域の方々を支えられ学んでいくことで、地域への愛着も深まります。

学校・地域は、子どもたちが「地域の創り手」として主体的に地域づくりに“参画”できるよう、上記の内容を参考に、各地域・学校の実態に応じて具体的な活動を考えていただきたいと思います。『やまぐちPRIDE』の醸成に向けて、児童生徒の協働活動への参画が進むことを期待しています。